

# 連結決算補足説明資料

2019年3月期 第3四半期

(2018年4月1日～2018年12月31日)

2019年1月30日

(証券コード：9640)

**株式会社 セゾン情報システムズ**

## もくじ

1. 概況
2. 連結売上高・連結営業利益推移
3. 事業セグメント別の損益状況
  - ① Fintech プラットフォーム事業
  - ② 流通 IT サービス事業
  - ③ HULFT 事業
4. 新技術・新領域進捗状況
5. トピックス
6. 連結業績の見通し
7. 貸借対照表概要
8. 配当推移・方針

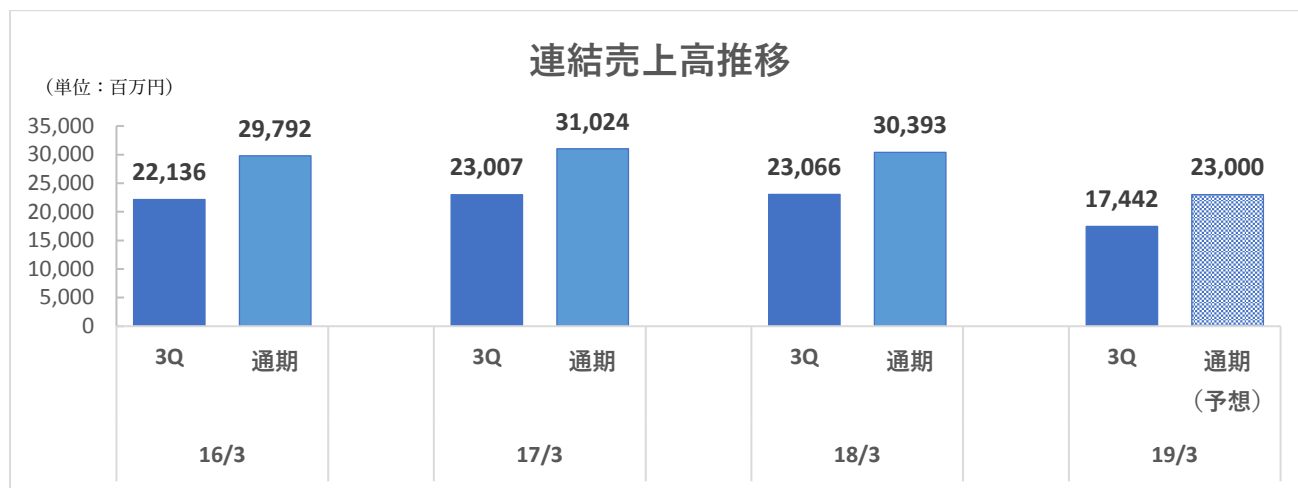
(注) この資料に記載されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 1. 概況

当事業年度は、2018年3月27日に公表しました中期経営計画の1年目であり、今後の3年間で事業モデルを刷新し、一層の事業の成長を実現するため、新しいビジネスの創出と新たな事業領域の拡大に取り組んでおります。決算短信等にも記載をしておりますとおり、前事業年度においては、十数年にわたり継続していた大型システム開発案件が完了し無事に稼動したことが業績に大きく貢献いたしました。したがって、当事業年度の実績は前期と対比すると減少しておりますが、中期経営計画で掲げている目標を達成するための取り組みを推進し、当期の業績は計画に対して順調に推移しております。

## 2. 連結売上高・連結営業利益推移

### ■連結売上高



#### <当連結累計会計期間>

当連結累計会計期間は、中期経営計画に策定しているとおり新たな事業領域の拡大に取り組んでいます。前年の実績と比べ実績値が減少しておりますが、計画値に対しては順調に推移しております。

#### <2018年3月期>

- 大型システム開発完了・稼働しカードシステム事業（現 Fintech プラットフォーム事業）売上高に大きく貢献（前期比 774 百万円増）
- HULFT 事業のライセンス/サービス、サポート売上好調（前期比 258 百万円増）
- 子会社の株式会社フェスを 2018 年 1 月に売却（⇒適時開示、2017 年 11 月 29 日）

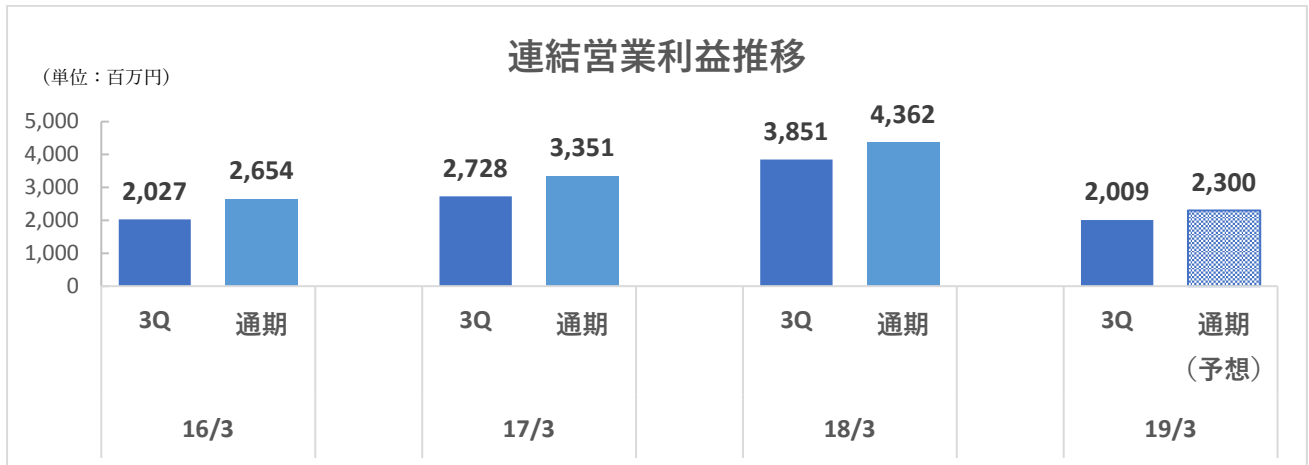
#### <2017年3月期>

- カードシステム事業（現 Fintech プラットフォーム事業）の売上回復（前期比 1,937 百万円増）
- その他事業（株式会社フェス等）売上が順調に進捗（前期比 1,142 百万円増）

#### <2016年3月期>

- 既存顧客向け情報処理サービス及びシステム開発が減少
- 2016 年 2 月に BPO 事業の譲渡

## ■連結営業利益



### <当連結累計会計期間>

売上高と同様に、前事業年度における大型システム開発案件が完了したことによる営業利益の減少しているため、前年と比べて営業利益が減少しております。今後は新技術・新領域への事業領域の拡大を目指すとともに、RPA など業務効率化等の生産性向上に取り組み、当事業年度は計画値に対して順調に推移しています。

### <2018年3月期>

- カードシステム事業（現 Fintech プラットフォーム事業）売上増加及び新旧システムの並行稼働による一時的な収益性の向上（前期比 1,170 百万円増）
- 流通・IT ソリューション事業（現 流通 IT サービス事業）において前期計上の解約損失引当金の影響（前期比 859 百万円増）

### <2017年3月期>

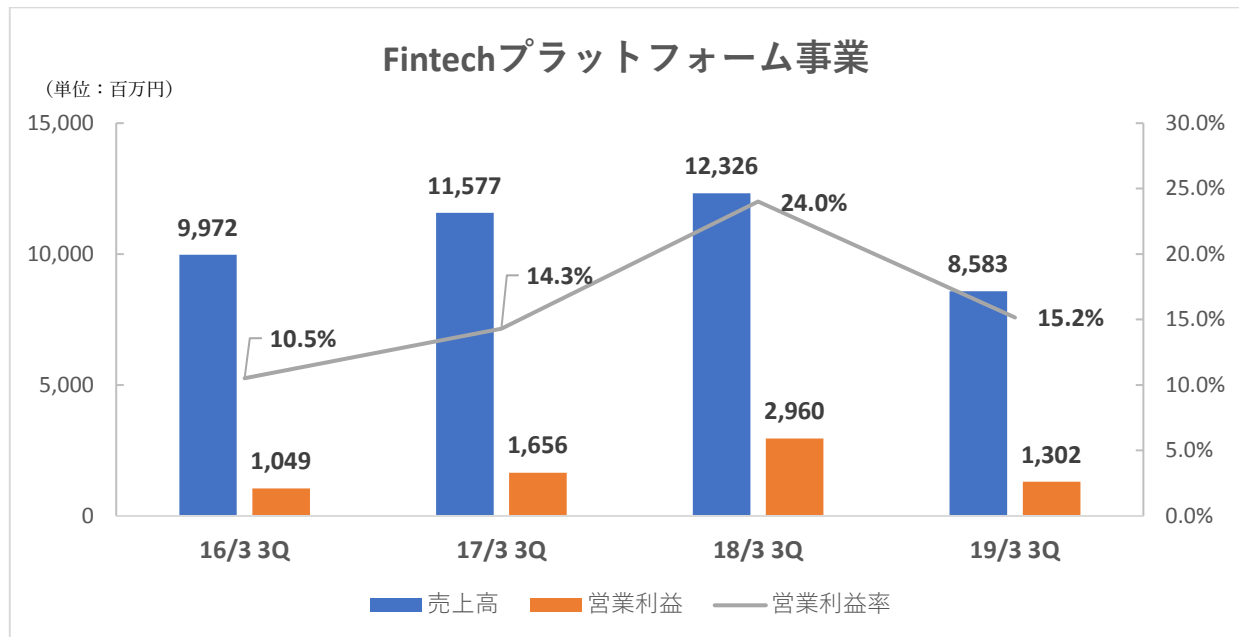
- カードシステム事業（現 Fintech プラットフォーム事業）売上増加に伴う利益の増加（前期比 1,199 百万円増）
- 前期に赤字であった BPO 事業を譲渡したことによる利益体質改善（前期比 1,253 百万円増）

### <2016年3月期>

- 前期に計上した大型システム開発案件の開発遅延に係る製品保証対応費用が減少
- BPO 事業を譲渡し経営資源の選択と集中を図る

### 3. 事業セグメント別の損益状況

#### ① Fintech プラットフォーム事業



当第3四半期連結累計期間については、決算短信に記載のとおりです。

#### <2018年3月期（カードシステム事業）>

- 大型システム開発案件関連が売上に貢献（前期比 774 百万円増）
- 大型システム開発案件に伴う売上増加及び新旧システムの並行稼働による一時的な収益性の向上（前期比 1,170 百万円増）

#### <2017年3月期（カードシステム事業）>

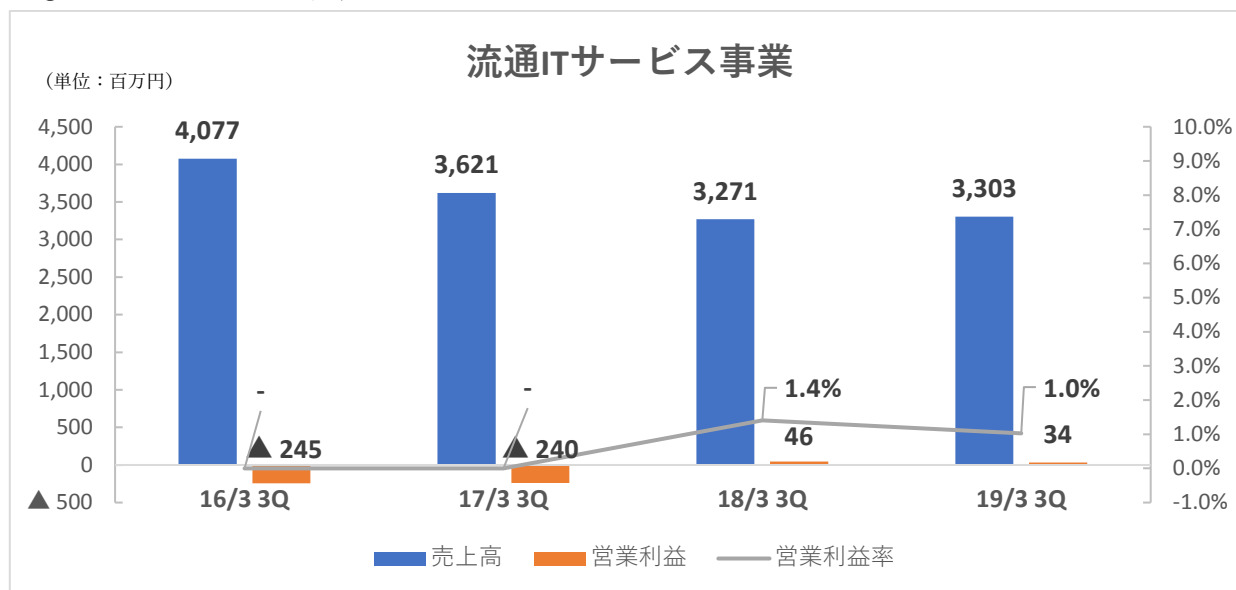
- 製品保証対応等により一時的な減少から回復（前期比 1,937 百万円増）
- 売上高の回復にともなう利益の回復（1,199 百万円増）

#### <2016年3月期（カードシステム事業へ名称変更）>

- 既存顧客向け情報処理サービスが堅調に推移
- 前期に計上した大型システム開発案件の開発遅延に係る製品保証対応費用が減少

(注) 金融システム事業のうちクレジットビジネスを対象とした事業を「カードシステム事業」に名称変更、その他の法人向けのシステム化を流通サービスシステム事業と統合し流通サービスビジネス事業を「エンタープライズ・ソリューション事業」にそれぞれ名称変更しています。

## ② 流通 IT サービス事業



当第3四半期連結累計期間については、決算短信に記載のとおりです。

### <2018年3月期（流通・ITソリューション事業）>

- 既存顧客向けのシステム開発が減少したことにより売上高が減少（前期比380百万円減）
- 生産性の向上による収益性向上や前期に計上したプロジェクトの開発中止に係る損失が収斂したことにより営業利益が改善（前期比859百万円増）

### <2017年3月期（流通・ITソリューション事業へ名称変更）>

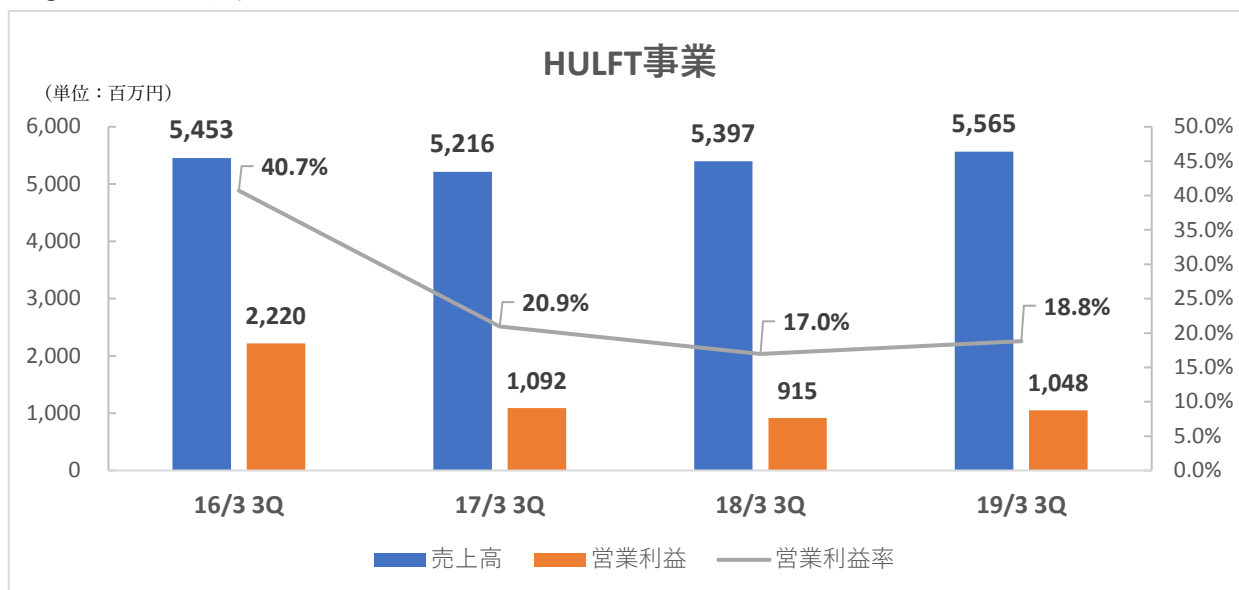
- 常駐型システム開発案件の減少により売上高が減少（前期比472百万円減）
- 解約損失引当金繰入額の計上により営業損失（前期比282百万円減）

### <2016年3月期（エンタープライズ・ソリューション事業へ名称変更）>

- 情報処理サービスやシステム開発が減少したことにより売上高が減少（前期比664百万円減）
- 新規分野に係るシステム開発における不採算案件の発生及び一部プロジェクトの開発中止に係る損失計上により営業損失（営業損失383百万円）

(注) 金融システム事業のうち、その他の法人向けのシステム化の部分を通称サービスシステム事業と統合し「エンタープライズ・ソリューション事業」に変更しています。

### ③ HULFT 事業



当第 3 四半期連結累計期間については、決算短信に記載のとおりです。

#### <2018 年 3 月期>

- ライセンス/サービス、サポートが堅調で売上高が増加（前期比 258 百万円増）
- 製品開発方針見直しなどの影響により、利益が減少（前期比 137 百万円減）
- グローバル展開の事業基盤強化として、英国に EMEA 事業所を開設

#### <2017 年 3 月期>

- グローバル製品戦略の変更により売上高の減少（前期比 179 百万円減）
- 戦略的な投資（海外事業展開）拡大のため費用が増加したため営業利益が減少（前期比 1,503 百万円減）
- グローバル展開の一環として、北米地域への拡販を主な目的として、アメリカ合衆国現地法人 HULFT Inc. を設立

#### <2016 年 3 月期>

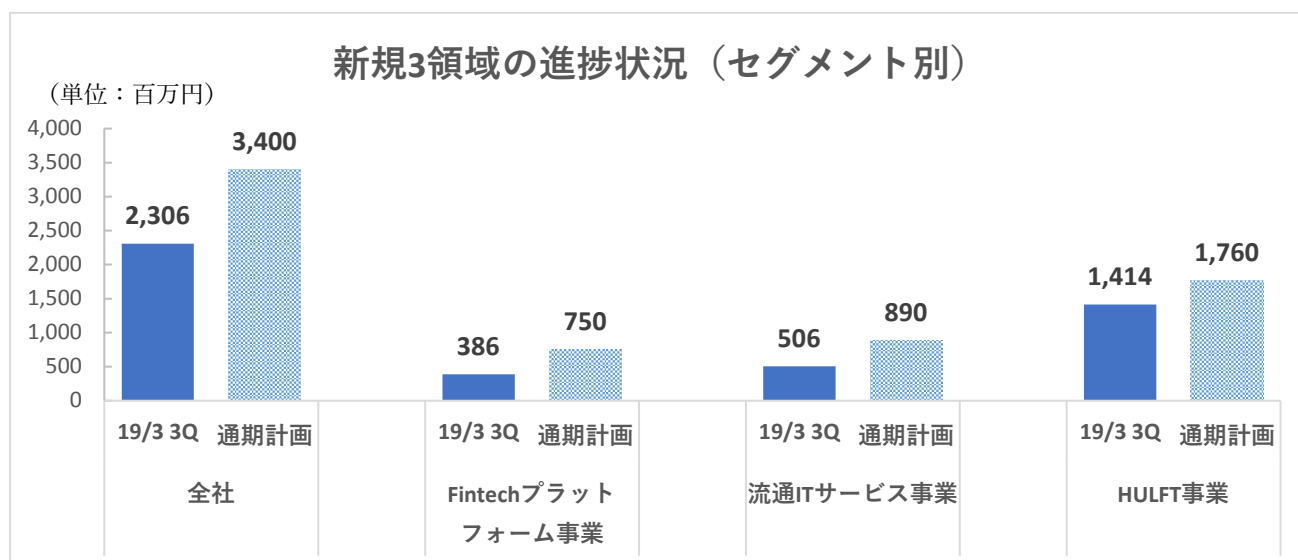
- 「HULFT 8」が順調に出荷本数を伸ばし、HULFT ファミリー製品の売上も順調であったことから売上高増加（前期比 249 百万円増）



## 4. 新技術・新領域進捗状況

### ■事業方針

当社は、事業領域の拡大と先端技術を駆使した提案型ビジネスへ事業モデルの刷新を実現するため、新技術・新領域へ事業領域拡大を経営目標として掲げております。新技術・新領域への事業領域拡大は、事業を4つの象限に区分して象限別に進捗管理を実施しています。



### ■全社

当事業年度の計画において、4つの象限のうち既存のみの領域を除く新規3象限の計画値は3,400百万円としています。第3四半期連結累計期間での実績は2,306百万円であり、通期計画に対する進捗率は、67.8%となっております。各セグメントの実績は以下のとおりとなっております。

### ■Fintech プラットフォーム事業

Fintech プラットフォーム事業は、通期計画値750百万円に対して、第3四半期連結累計期間での実績は386百万円であり、通期計画に対する進捗率は51.5%です。

### ■流通 IT サービス事業

流通 IT サービス事業は、通期計画値890百万円に対して、第3四半期連結累計期間での実績は506百万円であり、通期計画に対する進捗率は56.9%です。

### ■HULFT 事業

HULFT 事業は、通期計画値1,760百万円に対して、第3四半期連結累計期間での実績は1,414百万円であり、通期計画に対する進捗率は80.3%です。

## 5. トピックス

### ■ニュースリリース一覧（期間：2018年10月1日～12月31日）

- HULFT テクニカルサポートが「平成30年度 カスタマーサポート表彰制度」2年連続受賞  
⇒サポート品質向上への取り組みが評価
- Amazon「Alexa Skill Awards 2018」最優秀賞、特別賞の受賞  
⇒DataSpider と Amazon Alexa の VUI を活用した視覚障がい者の業務支援  
⇒業務の自動化・効率化だけではなく障がいをもつ社員が自立的かつ主体的に働くことができる環境の提供も実現
- データ連携プラットフォーム「DataSpider Servista」に OCR 活用を支援する新機能「Tegaki アダプタ」をリリース
- サイオテクノロジーと Microsoft Azure 上での高可用性データ連携ソリューションで技術協力
- HULFT テクニカルサポートが「2018 CRM ベストプラクティス賞」を4年連続受賞  
⇒サポート契約更新率 2.0%向上、サポートサイト利用率 9.5%向上  
⇒テクニカルサポート体制のウィークポイントを改善し、サポート利用率向上からサポート契約更新率向上へつなげた取り組みが評価
- 「お客様に届く提案」を実現するデータの利活用基盤として、紀陽銀行がデータ連携ミドルウェア「DataSpider」を採用
- 「農園」による障がい者雇用を開始
- メディカル・データ・ビジョン社の病院向けサービス「CADA-BOX」が医療機関とのデータ連携基盤として「DataSpider」を採用
- アマノ株式会社、従来型のタイムレコーダーをクラウドサービスに対応させるデータ連携基盤として「HULFT-WebConnect」を採用
- クラウドエースとデータ連携ミドルウェア「DataSpider」の Google Cloud Platform™ との専用接続アダプタを共同開発
- 第一生命保険株式会社、急速なビジネス変化に適応する柔軟かつセキュアなファイル連携基盤に HULFT を採用
- 利用者個人がコントロール可能なパーソナルデータ管理プラットフォーム「BCPDS」を開発
- データ連携プラットフォーム「DataSpider Servista」総合満足度1位  
⇒株式会社日経 BP コンサルティング社が実施した「データ連携に関するアンケート調査」において、5年連続の受賞

## 6. 連結業績の見通し

2019年3月期の業績予想は、2018年10月30日に公表しました「第2四半期連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の業績予想から変更はありません。

連結（単位：百万円）	2019年3月期 （業績予想）	2018年3月期との比較		
		実績	増減額	増減率
売上高	23,000	30,393	▲7,393	▲24.3%
営業利益	2,300	4,362	▲2,062	▲47.3%
経常利益	2,300	4,341	▲2,040	▲47.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,780	4,315	▲2,535	▲58.8%

## 7. 貸借対照表概要

当第3四半期連結会計期間の貸借対照表は以下のとおりとなっております。前事業年度において、借入金の返済が完了し、財務体質が改善され自己資本比率も66.0%となっておりますが、財務戦略の策定は今後の経営課題として認識しております。

連結（単位：百万円）	2019年3月期 第3四半期	2018年3月期末との比較		
		実績	増減額	増減率
流動資産	10,773	11,931	▲1,157	▲9.7%
固定資産	8,262	9,014	▲752	▲8.3%
資産合計	19,035	20,945	▲1,910	▲9.1%
流動負債	5,480	8,242	▲2,762	▲33.5%
固定負債	982	1,175	▲192	▲16.4%
負債合計	6,462	9,418	▲2,955	▲31.4%
純資産合計	12,572	11,527	1,045	9.1%
負債・純資産合計	19,035	20,945	▲1,910	▲9.1%
自己資本比率	66.0%	55.0%	+11.0 p	—

## 8. 配当推移・方針

### ■配当方針

当社の配当方針は、業績との連動性強化と安定配当の両立を図りたいとの考えのもと、以下の基本方針を掲げております。

#### 【業績との連動性強化】

連結当期純利益の30%前後を目安に配当を確保しています。

#### 【安定配当】

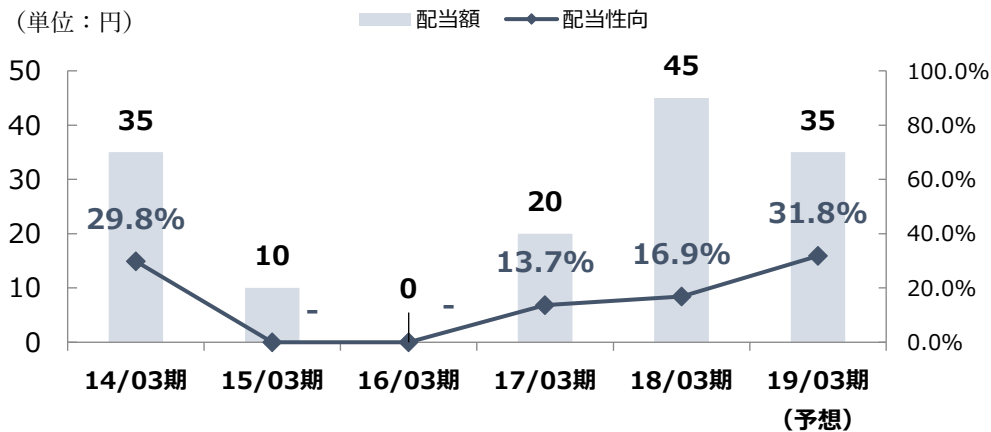
万一の業績悪化時にも、1株あたり10円の配当金を維持するよう努めております。

### ■配当推移

2015年3月期の配当は、大型のシステム開発案件において改修及び追加開発等の製品保証対応コストを7,554百万円計上したことによる最終損失計上のため、配当方針のとおり年間配当額10円としております。また、2016年3月期の配当も、同様に多額の当基準損失を計上したことにより無配当とさせていただきます。

2017年3月期以降は業績が回復し、2018年3月期は株式会社フェスの株式譲渡による特別配当を実施しております。

### 配当推移



<お問い合わせ先>

株式会社セゾン情報システムズ

経営推進部 IR 担当

Tel : 03-6370-2930

URL : <http://home.saison.co.jp/>